

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471501761
法人名	株式会社 メッセージ
事業所名	グループホーム アミーユ南蔵王
所在地	福山市南蔵王5丁目20-25 (電話) 084-940-6626
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 20 年 2 月 15 日

【情報提供票より】20 年 1 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 年 8 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 12 人 非常勤 2 人 常勤換算 12.6 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り 3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分
------	-------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	76,300 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (八百円以上)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	5 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 77 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福山第一病院 蔵王歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成 20 年 2 月 25 日

商業地域の中にあり利便性に富んでいる。小規模多機能と併設されているので、事業所内の交流が図られている。管理者、職員が利用者の以前の楽しかった生活、普通の生活を取り戻せるような日々の支援を実践されている。最大の楽しみである食事についての取り組み”ソフト会”を定期的開催し、研修を積み重ねられている。また、その人の思いをくみ取り、一歩でも家族に近づけるように努力すると共に、利用者とのコミュニケーションを大切にされ利用者本位の暮らしが出来るよう努めている。また事業所が行う行事に近隣の方々を招待するなど交流が図られる取り組みがされている。理念の一つに「普通の生活の回復を目指す」に向け管理者、職員が一丸となって取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については危険物の保管管理、鍵の設置など、出来る部分から改善に向け取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は評価の意義を理解され、意見を出し合いながら自己評価を行い、問題点についてはカンファレンスで話し合い、改善に向け取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回定期的開催され、地域の代表者等を加え包括支援センター、利用者、家族等が参加され、事業所の取り組み状況を報告し、沢山の意見を聴取しながら、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。また、出された意見は機関誌に掲載し、周知が図られている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会、運営推進会議の中での意見や要望を聞き、また、訪問時等でも意見を聞く機会を持ち、介護計画や、サービスなどに反映させている。また、リーダー会議などでも検討され運営面にも反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入すると共に地域行事にも積極的に参加するように努めている。また、散歩時等において声掛けしたり、事業所の行事に地域の方々を招待するなど、交流の推進が図られている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての基本理念はあるが、事業所独自の具体化された理念とは言えない。		法人理念に基づき事業所独自の具体化された地域密着型サービスとしての理念を作り上げられることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念及びユニットごとの目標を設定し、カンファレンスの中で各ユニットごとの目標達成状況を全職員で話し合い日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃活動や夏祭り、声掛け運動などに積極的に参加すると共に、事業所の秋祭りに招待するなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義の理解をされ、自己評価を全職員で行い気づきについては改善に向け取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催し、行事や事業所の取り組み状況などについて報告し、そのなかでの意見をカンファレンスで検討し質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類関係についてはアドバイスを頂くようにしているが、関係づくりは十分とは言えない。		行事やサービスに関する情報提供を積極的に行い、連携が図られる体制づくりをされると共に、運営推進会議にも参加して頂くよう取り組んでいかれることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭管理状況の報告の際、生活状況や健康状態など簡単なコメントをつけ、個々に合わせた報告をしている。職員異動などについてはホーム便りなどで知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回開催し、家族等の意見を聞くようになっている。訪問時などにも意見や要望を聞くように努め、意見箱や要望カードの設置もしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職に伴う環境変化には引き継ぎ期間を長くし、ダメージが少なくなるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、ケアなどについての内部研修をしている。外部研修には希望者に参加してもらっている。研修内容についてはカンファレンスの中で周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の意見交換等は行っている。他の事業者同士の情報交換も行うよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族からの相談を受けた時から家庭訪問を行うと共に、見学や体験入居をしてもらい、徐々に馴染めるよう工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の自主性を尊重し、入居者同士、また職員も寄り添い、無理のない程度にお互いが支え合う関係づくりをしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者や家族等から生活歴を聞き、希望や思いを把握すると共に、本人の意向に沿うよう努めている。また、困難な利用者には態度や表情などから把握するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月介護計画を作成し、利用者、家族、主治医などの意見を聞きながらカンファレンスの中で話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月見直しを行っている。状況変化があった場合は、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の主治医への受診や希望の理美容院へは家族の送迎となっているが、家族の状況により事業所が行うなど柔軟な対応、支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の連携を図ると共に利用者のかかりつけ医との関係も大切に、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から家族と話し合うと共に、意志の確認を行っている。重度化した場合の指針を作成するとともに、協力医療機関、職員などで事例問題を出し研修を行い、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報管理は適切である。利用者への言葉かけも穏やかで公平な対応をされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣を大切に、それに基づいた生活リズムに沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託となっているが、月数回のイベントなどは利用者と職員が楽しみながら準備や片付けなど行っている。一人ひとりの健康状態に合わせて食べやすいように配慮されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一定の制限はあるが、利用者の希望に合わせて昼、夜でも楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を大切にし一人ひとりに合った役割を持ってもらうように努めている。花の水やりなど積極的にされている。カラオケ大会などを行い、楽しみや気晴らしの支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族を含む小旅行が企画されたり、希望に応じた散歩や買い物など戸外に出る機会を持つよう取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所が2・3階となっており、階段があるため見守りを中心としているが、ドアにセンサーや鈴を取り付けるなど工夫をし、日中は鍵をかけていない。エレベーターの利用は自由に出入りが出来るようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施しているが、地域の協力を得るための働きかけは十分とは言えない。		建物の構造上段差があるが、段差について検討されると共に、災害時に地域の協力が得られるよう、運営推進会議に提案され体制づくりの構築に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた食事形態を工夫し、少しでも多く摂取できるよう取り組んでいる。水分量については体調を見ながら記録に残し、医師の指示に従い管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえる装飾品が飾られている。不快な匂いもなく居心地よく過ごせる共有空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味のものを飾られたり、利用者一人ひとり過ごし易いようにベッドや家具が配置されていた。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム アミーユ南蔵王（ユニット名：ききょう）

評価年月日 2008年 2月 15日

記入年月日 2008年 1月 15日

記入者 代表/管理者 氏名 藤本 太美

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者の満足度を高めることをすべてにおいて優先します</p> <p>利用者の「普通の生活」の回復を目指します。</p> <p>お年寄り(利用者)の価値を高める努力をおこないます。</p> <p>利用者の喜びが職員の喜びであるような仕組みを作りま</p> <p>す。</p> <p>法令を遵守し地域社会に貢献します。</p>	<p>継続していきます。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>会社の理念に基づき、その人らしい生活が送れるように支援しています。</p>	<p>ユニット独自の理念を構築し取り組んでいます。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>施設玄関に理念を掲示し、運営推進会議の時にも理念の説明を行っています。</p>	<p>継続していきます。</p>
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>立地条件が商業圏であるために、気軽に立ち寄ってもらえるような積極的活動は充分に行えていませんが、回覧板のやりとりや ご近所への挨拶など心掛けています。</p>	<p>継続していきます。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会へ加入しており、地域行事へ参加しています。</p>	<p>継続していきます。また施設行事も町内会へお知らせをし、交流の場を広げていくように努めます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	職場体験などのボランティアの受入れを実施しています。		何らかの交流が出来、情報交換の場所やネットワークを作っていきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価の結果を受け、具体的な目標を設定し改善策をたてています。		継続していきます。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、そこで出た意見をカンファレンスで検討して援助に繋げています。		継続していきます。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	包括支援センターと連絡を取り合っています。		継続していきます。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	地域権利擁護事業や成年後見制度のパンフレットを施設に設置し、研修会があればそれに参加しています。		継続していきます。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	社内・外の研修により学ぶ機会を持ち、カンファレンスなどで話し合い防止に努めています。		継続していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時には、疑問点や不安内容について十分尋ねながら説明をするようにしています。利用者、家族の希望に応じて複数日かけることもあります。		継続していきます。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、ご要望カードを設置し、いつでも意見をくみ上げるようにしております。また、会社としても「お客様相談室」を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしています。		継続していきます。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、近況報告を兼ね、手紙を送付しています。金銭使用状況については領収書の送付を行っています。		継続していきます。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、ご要望カードを設置し、いつでも意見をくみ上げるようにしております。また、会社としても「お客様相談室」を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしています。		継続していきます。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/週、業務改善に関する話し合いを行っています。		継続していきます。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて、勤務時間の変更をしていますが、人員に限りがあり十分な対応が出来ているとはいいいがたい状況です。		柔軟な対応が出来るよう、職員確保などに努力していきます。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数ユニットがあり、離職を防ぐためにもやむを得ず異動をすることがあります。その際は出来るだけ入居者へのダメージを少なくするよう、引継ぎ期間を長くもてるよう配慮しています。		離職、異動を少なくするように努力し続けます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は年間を通して計画し、さまざまな知識が習得できる機会を設けています。		継続していきます。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的な交流は図れていないのが現状です。しかし、ネットワーク作り、情報交換などを少しずつ行っています。		施設訪問などを通じて交流を図る機会を作っていこうと思います。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会社で担当者を決め、職員の相談窓口を設置しています。		継続していきます。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	2回/年の昇給制度、社外研修参加補助制度、資格取得補助制度があります。		継続していきます。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面談時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしています。		継続していきます。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面談時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何に困っているか、どうしたいのかを伺い、今どんな支援を必要としているかを見極め、どんなサービスを利用すれば解決できるかを一緒に考えるようにしています。入居が前提ではありません。		継続していきます。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を利用していただくことも出来ます。また、入居前に暫定ケアプランを作成し、どのようなケアを行っていくかを本人、家族に話をしています。		継続していきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を一緒に営むという認識の下、援助を行っています。理念にもあるように、入居者の喜びが職員の喜びであるような援助がモットーです。		継続していきます。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況について随時、家族へ報告し、状態を把握していただき援助についても一緒に考えていただいています。理念にもあるように、顧客の喜びが職員の喜びであるような援助がモットーです。		継続していきます。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつまでも家族の一員であることをお互いに認識してもらえるような援助をしています。出来るだけ、ご家族に来ていただけるような施設作りに努めています。		継続していきます。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力していただき今までの生活が継続できるように努力しているが十分とは言いがたい。		継続していきます。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員も共同生活者の一人として入居者を支えるようにしています。その中から入居者同士の関係を把握し、職員が橋渡し役となって入居者同士がかかわりあえるようにしています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後は担当ケアマネジャーの方と相談しながら、継続したかわりが必要なケースについてはフォローしています。		継続していきます。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居相談、面談、契約時などにこれまでの生活について聴くようにしています。本人、家族、親戚、近所の方、ケアマネジャーなど本人をよく知っている方々からさまざまな情報を頂くようにしています。		継続していきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談、面談、契約時などにこれまでの生活について聴くようにしています。本人、家族、親戚、近所の方、ケアマネジャーなど本人をよく知っている方々からさまざまな情報を頂くようにしています。		継続していきます。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居相談、面談、契約時などにこれまでの生活について聴くようにしています。本人、家族、親戚、近所の方、ケアマネジャーなど本人をよく知っている方々からさまざまな情報を頂くようにしています。		継続していきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフカンファレンス等で話し、本人、家族、主治医などから意見を頂き、1回/月、見直しを行い計画作成しています。		継続していきます。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1回/月の見直しは行いますが、体調変化などに伴い急遽計画変更が必要な場合は適宜、変更しています。		継続していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	規定の介護記録に日々の生活の様子を記入しています。		継続していきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族対応の受診についても、状況により対応している。救急性の必要がある場合においても柔軟に対応している。		継続していきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	その方の今までの生活、現在の状況において必要な場合は民生委員の協力を仰ぎ支援をしています。		継続していきます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向、必要性によっては、他のサービス利用を含めどんなサービスを利用すれば解決できるかを一緒に考えるようにしています。		継続していきます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では実施事例がありません。		ケースによって必要な場合は地域包括支援センターと協働して対応していきます。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、ご本人・家族が医療機関の選定をされています。事業所としては適切な医療が受けられるように助言等を行っています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に指示・助言の出来る医師が少ないのが現状です。遠方の専門医を受診し相談するようにしていますが、入居者全員がその医師の診察を受けているわけではありません。		出来るだけ、専門医の受診が出来るようご家族の理解を求めています。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設看護師を中心に健康管理を行っています。		継続していきます。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的にお見舞いに行き、状況を把握し、その際には担当医師、看護師、ソーシャルワーカーなどとも話をする機会を設けています。		継続していきます。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作成し、入居時から話し合いの機会を持つようにしています。		継続していきます。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、協力医療機関と日々事業所としてのできること・出来ないことについて情報交換を行い、最後までよりよい日常が過ごせるように協力していく体制に整えています。		継続していきます。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移動先の担当者に生活の様子を中心とした引継ぎを行い、移動後もいつでも問い合わせに対応できるようにしています。		継続していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の尊厳を守るような言葉かけ、態度で接するようにしています。個人情報の取り扱いについては個人情報保護法に基づいての取り扱いを行っています。</p>	<p>継続していきます。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が理解し、決定できるようなコミュニケーション手法により説明を行い自己決定を尊重するようにしています。</p>	<p>継続していきます。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの生活習慣に応じて援助をスケジュール化してはいますが、その日の様子、希望によって臨機応変に対応するようにしています。</p>	<p>継続していきます。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの好みに合わせ、着替えや化粧などの援助を行っています。理・美容院についても本人の望む店にいけるよう家族にも協力していただいておりますが、訪問美容を利用されている入居者も多くいらっしゃいます。</p>	<p>継続していきます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>保健衛生上、日頃の食事は配食会社への委託を行っております。しかし、イベントとして月に数回、食材の調達から調理までを行うようにしております。また準備・片付けについては入居者に協力していただきながら行っています。</p>	<p>継続していきます。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒については特に制限しておりません。たばこについては施設管理上、喫煙場所の限定をさせていただいておりますが喫煙自体は制限はありません。</p>	<p>継続していきます。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけ自然な形で排泄が出来るように努力しています。		継続していきます。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望の時間に入浴できるように配慮しています。		継続していきます。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるように温かい飲み物の提供をしたり、足を暖めたりするなどの工夫をしています。		継続していきます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来るだけ役割を持っていただけるように配慮しています。		地域、家族に協力を仰ぎ楽しく、張り合いのある生活が出来るよう支援していきたいです。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を頂き、個人でお金を所持している方もおられます。		金銭管理が本人でできるような工夫を施し、家族への説明理解を求めていきます。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時間に限りがありますが、希望に応じて散歩や買い物などにお連れしています。希望を言われない方については定期的にお誘いしています。		継続していきます。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を伺い、季節に応じて外出、日帰り旅行を計画しています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用に制限はなく、手紙の作成や投函等の支援も行っています。		継続していきます。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定は特になく、24時間可能です。ゆっくりくつろいでいただけるように配慮しています。		継続していきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県のフォーラムに参加し、また身体拘束の弊害を研修等にて伝えています。		継続していきます。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関および2階ユニット玄関は8時から18時までは開錠しています。ユニットが2階にあるため、安全の確保も必要ですが、利用者様・家族様が自由に入出入り出来るようにしています。		継続していきます。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して、所在確認を適宜行っています。		継続していきます。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じ対応しています。		継続していきます。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危機管理について研修等で知識を得るようにしています。一人ひとりの状態に応じて必要な対策をたて、実践しています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備え研修を行ってはいますが定期的に継続しては行えていません。地域で開催される救急救命講習会などへの参加をするように心がけています。		応急手当の方法などの研修を定期的に行い、事故発生時に迅速に対応できるようにしていきます。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間災害発生を想定した避難訓練も行っています。地域への協力の働きかけは町内会を通して行っています。		継続していきます。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状況に合わせリスクの予測を行い、ケアプラン等を通じて家族に説明、理解をしていただいています。安全を優先し行動を抑制したりすることのないようにしています。		継続していきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	施設看護師を中心とし、日々健康管理、異常の早期発見に努めています。異常がある場合には関係機関と連絡をとり受診などの対応をしています。		継続していきます。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方が飲んでいる薬の情報について約定をよく読む、薬剤師から説明を受けるなどして理解に努めています。また薬の変更時などは状態の観察を継続して行っています。		継続していきます。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールについては薬剤だけに頼るのではなく、運動励行・水分摂取・食物繊維の摂取など生活面から支援できることにも取り組んでいます。		継続していきます。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	誤嚥性肺炎の予防のためにも一人ひとりの状況に応じて、口腔ケアを行っています。また、必要な方には定期的に歯科衛生士によるケアも行っています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ食事形態の工夫を行い、摂取できるように取り組んでいます。		継続していきます。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する研修にて誤解を招かないように注意しています。また、感染症に関する会議を行い対策を講じるようにしています。		継続していきます。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については毎日、配食会社からの搬入になります。調理器具の衛生管理については細菌検査を行ったり、専門家を交えた管理状況のチェックを定期的に行い安全を確保するようにしています。		継続していきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランタンに花を植え玄関周りに置くなどの雰囲気作りを行っておりますが不十分と思います。		防災面も考慮しつつ工夫をしていきます。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光については入居者にその都度聞きながら対応しています。季節感を感じれるような装飾を施し、心地よく過ごしていただけるように工夫しています。		防災の点から家庭的な空間作りが十分に行なえていません。今後、防災面の考慮もしながら空間作りに努めます。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、ひとりでゆっくり過ごせるスペースもあります。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての方が使い慣れたものを持参されているわけではありませんが、本人が過ごしやすいように家具の配置を工夫したり、好みに合わせた家具を使用いただいています。		引き続き家族への働きかけを実施し、馴染みの道具を使用いただけるようにします。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	乾湿計を設置し、最低2回/日はチェックを行い、その都度温度調節を行っております。また研修・評価等で指摘・改善を行っています。		継続していきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置していますが、共有スペースは広い空間となっている箇所が多く安全とはいえない面もあります。		共有空間は困難な面が多くありますが、居室は家具の配置などを工夫しながら能力に応じた生活が送れるようにしていきます。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	人ひとりの状況に合わせて対応しています。		継続していきます。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにてプランター等に花を植え水やりをさせていただいたり、洗濯物を干していただいたりしています。また、外周りの草取り・花の苗を一緒に植えたりしております。		継続していきます。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「アミーユ」は介護が必要となる以前の“普通の生活”を取り戻していただく生活の場所と考えてます。そして旅行や趣味を通して、以前の楽しかった生活を取り戻して頂けるよう援助を行っています。運営推進会議などを通して、地域の方に施設を開示したりまたボランティアの方を受入れ交流を図っています。日々の暮らしの中で特に取り組んでいることは、嚥下困難な方への食事の提供方法です。介護を必要とし行動範囲も縮小されている方は食事が最大の楽しみの1つであると考え「ソフト食」に取り組み定期的に研究会を開催しています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護


事業所名 グループホーム アミーユ南蔵王（ユニット名：はまゆう）

評価年月日 2008年 2月 15日

記入年月日 2008年 1月 15日

記入者 代表/管理者 氏名 藤本 太美

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の満足を高めることをすべてにおいて優先します 利用者の「普通の生活」の回復を目指します。 お年寄り(利用者)の価値を高める努力をおこないます。 利用者の喜びが職員の喜びであるような仕組みを作りま す。 法令を遵守し地域社会に貢献します。	継続していきます。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社の理念に基づき、その人らしい生活が送れるように支援 しています。	ユニット独自の理念を構築し取り組んでいきます。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう 取り組んでいる	施設玄関に理念を掲示し、運営推進会議の時にも理念の 説明を行っています。	継続していきます。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、 気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが できるように努めている	立地条件が商業圏であるために、気軽に立ち寄ってもら えるような積極的活動は充分に行えていませんが、回覧 板のやりとりや ご近所への挨拶など心掛けています。	継続していきます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、 老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交 流することに努めている	町内会へ加入しており、地域行事へ参加しています。	継続していきます。また施設行事も町内会へお知らせ をし、交流の場を広げていくように努めます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職場体験などのボランティアの受入れを実施しています。		何らかの交流が出来、情報交換の場所やネットワークを作っていきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を受け、具体的な目標を設定し改善策をたてています。		継続していきます。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、そこで出た意見をカンファレンスで検討して援助に繋げています。		継続していきます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターと連絡を取り合っています。		継続していきます。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度のパンフレットを施設に設置し、研修会があればそれに参加しています。		継続していきます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・外の研修により学ぶ機会を持ち、カンファレンスなどで話し合い防止に努めています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時には、疑問点や不安内容について十分尋ねながら説明をするようにしています。利用者、家族の希望に応じて複数日かけることもあります。		継続していきます。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、ご要望カードを設置し、いつでも意見をくみ上げるようにしております。また、会社としても「お客様相談室」を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしています。		継続していきます。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、近況報告を兼ね、手紙を送付しています。金銭使用状況については領収書の送付を行っています。		継続していきます。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、ご要望カードを設置し、いつでも意見をくみ上げるようにしております。また、会社としても「お客様相談室」を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしています。		継続していきます。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/週、業務改善に関する話し合いを行っています。		継続していきます。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて、勤務時間の変更をしていますが、人員に限りがあり十分な対応が出来ているとはいえない状況です。		柔軟な対応が出来るよう、職員確保などに努力していきます。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数ユニットがあり、離職を防ぐためにもやむを得ず異動をすることがあります。その際は出来るだけ入居者へのダメージを少なくするよう、引継ぎ期間を長くもてるよう配慮しています。		離職、異動を少なくするように努力し続けます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は年間を通して計画し、さまざまな知識が習得できる機会を設けています。		継続していきます。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的な交流は図れていないのが現状です。しかし、ネットワーク作り、情報交換などを少しずつ行っています。		施設訪問などを通じて交流を図る機会を作っていこうと思います。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会社で担当者を決め、職員の相談窓口を設置しています。		継続していきます。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	2回/年の昇給制度、社外研修参加補助制度、資格取得補助制度があります。		継続していきます。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面談時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしています。		継続していきます。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面談時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何に困っているか、どうしたいのかを伺い、今どんな支援を必要としているかを見極め、どんなサービスを利用すれば解決できるかを一緒に考えるようにしています。入居が前提ではありません。		継続していきます。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を利用していただくことも出来ます。また、入居前に暫定ケアプランを作成し、どのようなケアを行っていくかを本人、家族に話をしています。		継続していきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を一緒に営むという認識の下、援助を行っています。理念にもあるように、入居者の喜びが職員の喜びであるような援助がモットーです。		継続していきます。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況について随時、家族へ報告し、状態を把握していただき援助についても一緒に考えていただいています。理念にもあるように、顧客の喜びが職員の喜びであるような援助がモットーです。		継続していきます。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつまでも家族の一員であることをお互いに認識してもらえよう援助をしています。出来るだけ、ご家族に来ていただけるような施設作りに努めています。		継続していきます。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力していただき今までの生活が継続できるように努力しているが十分とはいえない。		継続していきます。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員も共同生活者の一人として入居者を支えるようにしています。その中から入居者同士の関係を把握し、職員が橋渡し役となって入居者同士がかかわりあえるようにしています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後は担当ケアマネジャーの方と相談しながら、継続したかわりが必要なケースについてはフォローしています。		継続していきます。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居相談、面談、契約時などにこれまでの生活について聴くようにしています。本人、家族、親戚、近所の方、ケアマネジャーなど本人をよく知っている方々からさまざまな情報を頂くようにしています。		継続していきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談、面談、契約時などにこれまでの生活について聴くようにしています。本人、家族、親戚、近所の方、ケアマネジャーなど本人をよく知っている方々からさまざまな情報を頂くようにしています。		継続していきます。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居相談、面談、契約時などにこれまでの生活について聴くようにしています。本人、家族、親戚、近所の方、ケアマネジャーなど本人をよく知っている方々からさまざまな情報を頂くようにしています。		継続していきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフカンファレンス等で話し、本人、家族、主治医などから意見を頂き、1回/月、見直しを行い計画作成しています。		継続していきます。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1回/月の見直しは行いますが、体調変化などに伴い急遽計画変更が必要な場合は適宜、変更しています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	規定の介護記録に日々の生活の様子を記入しています。		継続していきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族対応の受診についても状況により対応している。また、救急性の必要がある場合においても柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	その方の今までの生活、現在の状況において必要な場合は民生委員の協力を仰ぎ支援をしています。		継続していきます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向、必要性によっては、他のサービス利用を含めどんなサービスを利用すれば解決できるかを一緒に考えるようにしています。		継続していきます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では実施事例がありません。		ケースによって必要な場合は地域包括支援センターと協同して対応していきます。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、ご本人・家族が医療機関の選定をされています。事業所としては適切な医療が受けられるように助言等を行っています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に指示・助言の出来る医師が少ないのが現状です。遠方の専門医を受診し相談するようにしていますが、入居者全員がその医師の診察を受けているわけではありません。		出来るだけ、専門医の受診が出来るようご家族の理解を求めています。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設看護師を中心に健康管理を行っています。		継続していきます。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的にお見舞いに行き、状況を把握し、その際には担当医師、看護師、ソーシャルワーカーなどとも話をする機会を設けています。		継続していきます。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作成し、入居時から話し合いの機会を持つようにしています。		継続していきます。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、協力医療機関と日々事業所としてのできること・出来ないことについて情報交換を行い、最後までよりよい日常が過ごせるように協力していく体制に整えています。		継続していきます。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移動先の担当者に生活の様子を中心とした引継ぎを行い、移動後もいつでも問い合わせに対応できるようにしています。		継続していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の尊厳を守るような言葉かけ、態度で接するようにしています。個人情報の取り扱いについては個人情報保護法に基づいての取り扱いを行っています。</p>	<p>継続していきます。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が理解し、決定できるようなコミュニケーション手法により説明を行い自己決定を尊重するようにしています。</p>	<p>継続していきます。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの生活習慣に応じて援助をスケジュール化してはいますが、その日の様子、希望によって臨機応変に対応するようにしています。</p>	<p>継続していきます。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの好みに合わせ、着替えや化粧品などの援助を行っています。理・美容院についても本人の望む店にいけるよう家族にも協力していただいておりますが、訪問美容を利用されている入居者も多くいらしゃいます。</p>	<p>継続していきます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>保健衛生上、日頃の食事は配食会社への委託を行っております。しかし、イベントとして月に数回、食材の調達から調理までを行うようにしております。また準備・片付けについては入居者に協力していただきながら行っています。</p>	<p>継続していきます。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒については特に制限しておりません。たばこについては施設管理上、喫煙場所の限定をさせていただいておりますが喫煙自体は制限はありません。</p>	<p>継続していきます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけ自然な形で排泄が出来るように努力しています。		継続していきます。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望の時間に入浴できるように配慮しています。		継続していきます。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるように温かい飲み物の提供をしたり、足を暖めたりするなどの工夫をしています。		継続していきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来るだけ役割を持っていただけるように配慮しています。		地域、家族に協力を仰ぎ楽しく、張り合いのある生活が出来るよう支援していきたいです。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を頂き、個人でお金を所持している方もおられます。		金銭管理が本人でできるような工夫を施し、家族への説明理解を求めています。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時間に限りがありますが、希望に応じて散歩や買い物などにお連れしています。希望を言われない方については定期的にお誘いしています。		継続していきます。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を伺い、季節に応じて外出、日帰り旅行を計画しています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用に制限はなく、手紙の作成や投函等の支援も行っていきます。		継続してまいります。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定は特になく、24時間可能です。ゆっくりくつろいでいただけるように配慮しています。		継続してまいります。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県のフォーラムに参加し、また身体拘束の弊害を研修等にて伝えています。		継続してまいります。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関および2階ユニット玄関は8時から18時までは開錠しています。ユニットが3階にあるため、安全の確保も必要ですが、利用者様・家族様が自由に入出入り出来るようにしています。		継続してまいります。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して、所在確認を適宜行っています。		継続してまいります。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じ対応しています。		継続してまいります。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危機管理について研修等で知識を得るようにしています。一人ひとりの状態に応じて必要な対策をたて、実践しています。		継続してまいります。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備え研修を行ってはいますが定期的に継続しては行えていません。地域で開催される救急救命講習会などへの参加をするように心がけています。		応急手当の方法などの研修を定期的に行い、事故発生時に迅速に対応できるようにしていきます。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間災害発生を想定した避難訓練も行っています。地域への協力の働きかけは町内会を通して行っています。		継続していきます。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの状況に合わせリスクの予測を行い、ケアプラン等を通じて家族に説明、理解をしていただいています。安全を優先し行動を抑制したりすることのないようにしています。		継続していきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	施設看護師を中心とし、日々健康管理、異常の早期発見に努めています。異常がある場合には関係機関と連絡をとり受診などの対応をしています。		継続していきます。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方が飲んでいる薬の情報について約定をよく読む、薬剤師から説明を受けるなどして理解に努めています。また薬の変更時などは状態の観察を継続して行っています。		継続していきます。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールについては薬剤だけに頼るのではなく、運動励行・水分摂取・食物繊維の摂取など生活面から支援できることにも取り組んでいます。		継続していきます。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	誤嚥性肺炎の予防のためにも一人ひとりの状況に応じて、口腔ケアを行っています。また、必要な方には定期的に歯科衛生士によるケアも行っています。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ食事形態の工夫を行い、摂取できるように取り組んでいます。		継続していきます。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する研修にて誤解を招かないように注意しています。また、感染症に関する会議を行い対策を講じるようにしています。		継続していきます。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については毎日、配食会社からの搬入になります。調理器具の衛生管理については細菌検査を行ったり、専門家を交えた管理状況のチェックを定期的に行い安全を確保するようにしています。		継続していきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランタンに花を植え玄関周りに置くなどの雰囲気作りを行っておりますが不十分と思います。		防災面も考慮しつつ工夫をしていきます。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光については入居者にその都度聞きながら対応しています。季節感を感じれるような装飾を施し、心地よく過ごしていただけるように工夫しています。		防災の点から家庭的な空間作りが十分に行なえていません。今後、防災面の考慮もしながら空間作りに努めます。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、ひとりでゆっくり過ごせるスペースもあります。		継続していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての方が使い慣れたものを持参されているわけではありませんが、本人が過ごしやすいように家具の配置を工夫したり、好みに合わせた家具を使用いただいています。		引き続き家族への働きかけを実施し、馴染みの道具を使用していただけるようにします。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	乾湿計を設置し、最低2回/日はチェックを行い、その都度温度調節を行っております。また研修・評価等で指摘・改善を行っています。		継続していきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置していますが、共有スペースは広い空間となっている箇所が多く安全とはいえない面もあります。		共有空間は困難な面が多くありますが、居室は家具の配置などを工夫しながら能力に応じた生活が送れるようにしていきます。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	人ひとりの状況に合わせて対応しています。		継続していきます。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにてプランター等に花を植え水やりをしていただいたり、洗濯物を干していただいたりしています。また、外周りの草取り・花の苗を一緒に植えたりしております。		継続していきます。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「アミーユ」は介護が必要となる以前の“普通の生活”を取り戻していただく生活の場所と考えてます。

そして旅行や趣味を通して、以前の楽しかった生活を取り戻して頂けるよう援助を行っています。

運営推進会議などを通して、地域の方に施設を開示したりまたボランティアの方を受け入れ交流を図っています。

日々の暮らしの中で特に取り組んでいることは、嚥下困難な方への食事の提供方法です。介護を必要とし行動範囲も縮小されている方は食事が最大の楽しみの1つであると考え

「ソフト食」に取り組み定期的に研究会を開催しています。